

ゴト師が来たときの対応法を決めているホールは少ない。追い出すのか？ 捕まえるのか？ 警察へ通報するのか？ それは誰が？

前回までは「ゴト師と言っても色々な人間がいる事を解説した。『学生』『主婦』『70を過ぎた常連のお爺ちゃん』等。今回は難しい対応を迫られるゴト師との戦いを徹底追及！『斬 耕平が切る！』

ゴト師がホールにやって来た
……、その時あなたのホール
ではどう対応するのか？

講演会にて

私↓中野 店↓店長 A↓D
↓従業員

私「まずどうしますか？」

A「警察を呼びます」

私「いきなり呼ぶのですか？」

A「ええ……」

B「いきなり呼ばないでらう」

私「ほう、ではどうするのですか？」

「トゴト」のようだ。

私「あなたは実際にその場面を見つけた事がありますか？」

B「ありません。ですが先ほども習いましたし、A・P総研のHPでも動画を観ていただけます……」

私「そうですね、ではあなたとゴト師と判断をされるのですか？」

B「いいえ」

私「誰が判断をされるのですか？」

B「店長だと思います」

非常に大事な部分である。

今回の確信と言っても良いので、もう少し掘り下げてみたい。

私「店長が判断すると決まっていますので」

店「はい、私が判断します」

私「店長は今までにゴト師を捕まえた事はありますか？」

店「ありませんが、ゴト師かなと思っただけです」

私「どうしてゴト師かなと思っただけですか？」

店「人相の悪いのが何人かが入って来て、同じ台に座ったからです」

私「なるほど。ではここで少しまとめましょう。つまりBさんはゴト師を見つけた事は無い、店長は見つけた事はありますがゴト行為で判断したのではなく、入店時の様子から見張っていたらそうだった、と言う事ですね」

店「はい、そうです」

C「そう言えばこの間、何か台の脇をゴソゴソしていた奴がいました」

私「そうですね、それがどうなりましたか？」

C「上手く行かなかったのか、全然出ないままに帰って行きました」

私「それは本当に上手く行かなかったのか、その後で打ち子が座ったのかもしれないですね」

C「その後もその台が出てくる感じがなかったです」

私「分かりました。その男が成功したかどうかはここでは置いておきましょう。最初にAさんはいきなり警察を呼ぶと言いました。それについてBさんは『そのような行為はお止めください』と声をかけ

私「店長がいなくて誰が判断するのですか？」

「誰だろう」

「お前じゃない？」

「え、オレ!?」

私「主任ですか？」

店「店長の下の者です」

私「その時もあります」

他の講習会の例

私「ここまでは分かった事は、判断をするのは店長で、その為にはまず見張って確認を得るという事が大切だと言う事



illustration : t.tsukamoto

受講師は全員神妙になって聞いている。
私「ゴソゴソしている客をゴト師と判断出来るのですか？」
店「無理ですね、見張るぐらいしか出来ないでしょう」
他の受講生達からも「それしかないな」「難しいね」等の声が上がりに始める。

D「でもデータを観ていれば異常に気付くんじゃないですか」
私「そうですね、分かるものもありますし分かり辛いものもありますよ」
過去の裏口ム事件
実際に裏口ムやぶら下がりの場合、余程へたな打ち子で無い限りデータでは分からない。

「この台に裏口ムが仕掛けられていますね」
「念のために行く検査で、うちからは何も出ませんよ」と言っていた部長も、我々が裏口ムを発見した事に驚き、過去のデータを隈無く調べ始めた。
「やっぱり時々来る、あの女が怪しいと思ってたんですよ」
店員のこの一言に、「なんだと、なぜその時に言わないのだ！」
「え、何度も店長には言いましたけど」
「店長どう言う事だー！」
「いや、まさかあんな女性がゴト師とは思えなかったのだから、実際に有ったやり取りだ。この場合も女が来たと思われる日は大抵赤誤差が出ている。それでも毎日来るわけでもなく、発見した事で隈無く見てみると「やはり出ていた」となる。だからデータから発見するのは、毎日数百台、あるいはそれ以上の台を監視し続けても本当に困難だ。

話を戻そう。
私「ここまでで分かった事は、判断をするのは店長で、その為にはまず見張って確認を得るという事が大切だと言う事



なかの こうへい
1957年高知県出身。大手OA機器販売メーカー・大手建設会社などの勤務経験の後、パチンコ業界に入る。その後、三十年以上にわたり、パチンコ業界の全てを研究しつくし、各遊技業協同組合でも不正防止講演会に講師として参加するなど、不正防止の知識を広く伝えるべく活動を行っている。



記事に関するお問い合わせはA・P総研まで Tel.03-3202-0971